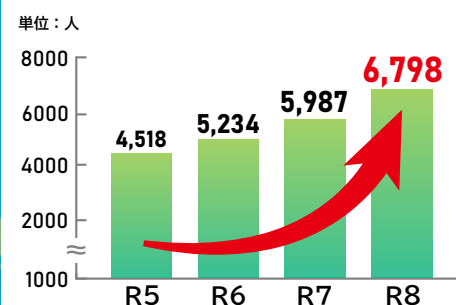


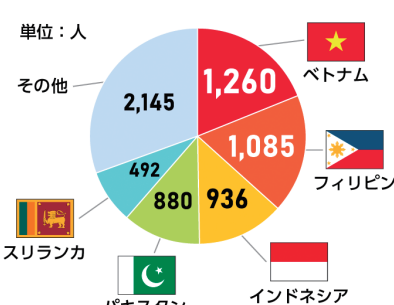
現状を知る

古河市には60カ国、6,798人(4月1日現在)の外国人住民が暮らしています。中でもベトナムやフィリピンなど東南アジア出身の外国人が多く、在留資格状況を見ると「永住者」や「技術・人文知識・国際業務」が上位です。また、就労を目的とする在留資格が急増しており、企業の大きな力となっています。

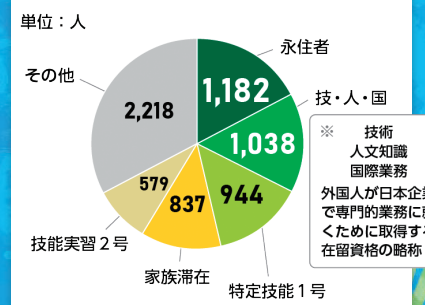
市内在住外国人の数



主な出身国



外国人在留資格状況



市の取り組み

外国人アットホーム in 古河 「出張サポート」スタート！



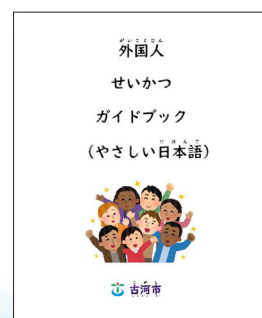
生活全般にわたる情報提供・困り事の対応、学用品の無償貸し出しなど、さまざまなサポートを行う窓口です。

詳細はこちら



共生・交流推進室を新設

言葉や文化の壁を越え、誰もが安心して暮らせるまちをつくるため、共生・交流推進室を新設しました。地域住民との絆を深める交流イベントを開催するなど、多角的な支援を行います。



▲外国人向けの「せいかつガイドブック」を作りました。ぜひ、ご覧ください

生活に必要なことが分かります



「はじめまして」から始めよう

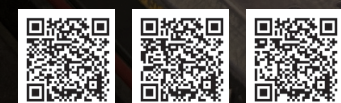
互いを知ることで見えてくる新しい日常



宇賀神電機(株)で働くファイザルさん(左)



4・5ページ 6・7ページ 8・9ページ



前回の多文化共生特集
(令和7年8月号)を踏まえて

心の壁を、心のドアに
想像してみてください。『もし明日、言葉も文化も違う国で急に暮らすことになったら』
役所や銀行など窓口での手続き、レストランでの注文、日々の買い物……。戸惑いや不安で、途方に暮れてしまうかもしれません。
現在、市内では外国人の姿を見かけることが当たり前前の光景になりました。しかしながら、私たちは彼らの日常や心細さにどれだけ思いを寄せられているでしょうか。心のどこかで「言葉が通じないから」と壁を作ったり、知らず知らずのうちに偏見の目を向けていたりはいないでしょうか。
少子高齢化が進む日本において、外国人住民の人は単なる「滞在者」ではなく、地域の経済や暮らしを共に支える大切な「仲間」です。市でも今年度、外国人住民との共生社会の実現に向けた施策を展開するため「共生・交流推進室」を新設しました。
今月号では、市内で懸命に働き、地域を支えてくれている3人の外国人住民を紹介しします。彼らの素顔や思いを通じて、お互いに支え合い、共に生きる温かい未来のカタチを、改めて一緒に考えてみませんか。

